

重点課題に関する報告事項 (1) 確実な再造林の実施

(表題) 九州における特定母樹の申請・普及と増殖技術の開発 (九州育種場)

○特定母樹の指定状況

令和3年度末現在で九州管内の特定母樹は、スギエリートツリー18系統、第一世代精英樹の少花粉スギ品種7系統、低花粉スギ品種1系統、第一世代精英樹13系統、ヒノキエリートツリー1系統の計40系統となっています。

今中長期計画期間中はヒノキの特定母樹の申請に取り組むとともに、引き続きスギエリートツリーの開発を進め、育種集団林(第3世代)の設定を行うこととしています。

○特定母樹の原種配布状況

スギ特定母樹の原種配布は平成26年度から開始し、令和3年度末現在で累計19,022本を九州各県及び認定特定増殖事業者からの要望に応じ配布しています。

また、ヒノキ特定母樹については、平成30年度70本、令和元年度25本、令和3年度5本、合計100本の原種配布を行いました。

なお、令和3年度にヒノキ採種園造成のため、関東育種基本区から12系統60本の配布を受けている県もあり、今年度も複数者が他基本区からの導入を計画しています。

○特定母樹の原種配布後の九州育種場の取組

県や認定特定増殖事業者を対象に、会議等において育種情報の提供を行うとともに、採種(穂)園等の造成・改良、優良種苗のコンテナ苗生産技術など林木育種技術に関する講習会の開催及び現地指導等を実施しています。

講習会や現地指導を希望される場合には、九州育種場のホームページにあるお問い合わせ先までご連絡をお願いします。

○認定特定増殖事業者の状況

九州管内の「認定特定増殖事業者」は、令和3年度以降新たに6者の方が認定を受け、令和4年8月末現在で、福岡県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県内の企業、樹苗組合、森林組合及び個人の計28者となっています。

また、今年度も複数の新規参入者が予定されています。

○土を使わずミスト散水でさし穂を発根させる技術(エアざし)

エアざし技術を試験地用のスギさし木コンテナ苗生産に活用しつつ、温室内のマイクロ環境が発根に与える影響を調査する等、発根率や作業効率をさらに向上させるための研究を進めています。(別添資料参照)

土を使わずミスト
散水でさし穂を発
根させる手法
(エアざし)を開発

(商標登録出願中)



お問い合わせ先

国立開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 林木育種センター 九州育種場
TEL : 096-242-3151 FAX : 096-242-3150
e-mail: kyusyukusyu@ml.affrc.go.jp

ホームページもご参照ください

(http://www.ffpri.affrc.go.jp/kyuiku/documents/200821_puresugennkou_eazasi_a.pdf)

スギのさし穂を土にさすことなく、空気中に露出するように立て、定期的にミスト散水することによって発根させる手法（エアざし）を開発しました（特許取得*1）。

（商標登録出願中）



〈作業の簡便化〉
この手法により、従来さし木に必要なだった土の準備や掘り取り作業が不要になります。

〈安定的な発根〉
定期的なミスト散水により露地さしと比較して1.3倍程度の発根率が得られます*2。



〈移植時期の見える化〉
発根状況を目視で確認できるため、効率的なさし木コンテナ苗生産が可能になります。



〈マニュアルの公開〉
イノベーション創出強化研究推進事業（農研機構生研支援センター）の成果として共同研究機関*3とともに「新たなさし木発根技術によるスギさし木コンテナ苗生産マニュアル」を公開の予定です。

*1：特許番号:第6709449号、発明の名称:さし穂の発根装置

*2：露地さし（九州育種基本区第一世代精英樹43系統平均）とエアざし（九州育種基本区第一世代及び第二世代精英樹61系統平均）の比較事例

*3：九州大学、宮崎大学、大分県農林水産研究指導センター、宮崎県林業技術センター、鹿児島県森林技術総合センター、株式会社長倉樹苗園、株式会社林田樹苗農園